

東山の森だより

【第 14 号】

発行：なごや東山の
森づくりの会
発行者：滝川正子
編集：広報班
発行月：2011年4月
(年2回発行)

カシノナガキクイムシがもたらすもの

～ サイレント・サマーへのプロローグ ～

なごや東山の森づくりの会 滝田 久憲

四季を通じて東山の森を歩いています。最近ある異変に気づくようになりました。それは森から生き物のざわめきが少しずつ聞こえなくなっていることです。森の果たす役割には色々なものがあります。森の樹木は空気を浄化し、気温を和らげ、水や土を作り、光合成で炭酸ガスを酸素に変えます。

また、フィトンチッドを出して、都会の人々の心を癒してくれます。そして、何と云っても一番大きな役割が生態系の中心となって地上や土壌の生物の暮らしを支えることです。この生物多様性の宝庫である森から生き物たちのざわめきが聞こえなくなりつつあります。その原因がカシノナガキクイムシによるナラ枯れです。カシノナガキクイムシはコウチュウ目ナガキクイムシ科に属し、成虫のメスはコナラやアベマキなどの樹木の中にナラ菌を持ち込みます。樹木の中に作られたトンネルの中で増えたナラ菌は幼虫の餌となりますが、厄介なのがこのナラ菌が木部の導管細胞などを破壊し、通水機能を低下させる事です。通水障害を起こした樹木は枝先に水を送れず、8月頃には、すでに葉は変色し、枯死に至ります(ナラ枯れ)。名古屋市内では2005年頃に猪高緑地でこの被害が出始め、東山の森では翌年の2006年8月の自然観察会でその被害を確認しました。水枯れで茶色に変色した葉っぱには、もはや空気を浄化し、気温を和らげる力はありません。

勿論、酸素も作れません。

秋は実りのシーズンですが、ナラ枯れを起こしたドングリの木には実は付きません。すなわち、次世代に遺伝子を繋ぐ事が出来ないのです。冬になり、他の落葉樹が葉を落とし、落ち葉が土にもどって行く中、ナラ枯れを起こしたコナラなどは葉をつけたまま、まるで生ける屍のように突っ立っているだけです。そして、最大の問題がナラ枯れ被害を多く受けた森では生物多様性が壊れつつある事です。変色し縮れた葉っぱはもはや昆虫の餌にはなりません。その昆虫を餌にする鳥も来ません。ドングリができないので、それを糧としている動物たちは大変です。奥山のミズナラの木がナラ枯れのためにドングリができなかったことから、餌に窮したクマたちが人里まで下りて来て人々と摩擦を起こしていた問題はまだ記憶に新しいと思います。また、東山の森では、夏になるとアベマキの木などに樹液酒場ができ、カブトムシなどたくさんの昆虫たちが集まってきましたが、一昨年来、ナラ枯れを起こしたアベマキの多い森では、この樹液酒場の閉店状態が続いております。かつて、レイチェル・カーソンは、農薬などの化学物質の乱用について警鐘を鳴らすために“サイレント・スプリング”(沈黙の春)を書きました。カシノナガキクイムシの被害を受けた森では、夏になると緑が消え、虫がいなくなり、鳥のさえずりが聞こえなくなりつつあります。正に、“サイレント・サマー”の到来です。東山の森では、このプロローグが始まったのかも知れません。



いつまで続くナラ枯れ



緑が眩しい東山の森

最後に、森の景観は訪れる者に安らぎや潤いを与えてくれます。それは私達の祖先が森から生まれ、その記憶が蘇るからだと思います。また、役割を終えた老木は倒れ、時間をかけて土に戻る中、それを糧にしながら次の世代が育ちます。こうした姿を見て、私達は自然のしくみを知ることができます。

このように、私達はこれまで森から暮らしや文化など様々な恵みを貰ってきました。今度は私たちが森に恩返しをする番です。今後、東山の森の再生が、なごや東山の森づくりの会の大きな課題となります。班活動などでも取り上げていきたいと考えています。

【 東山の森の生物たち 】

▣夜の森の美しい虫

鬼頭 洋子

昼間はどこか木の幹や葉陰に隠れてめったに出会えない虫、毎年夏に2回行っている灯火採集で出会う夜の森の美しい虫・・・

その名は「蛾」。これまで大きな蛾（オオミズアオ：写真）から小さな蛾まで400種くらいに出会いました。2006年のなごや環境大学講座「棲息生物調査（灯火採集）」に参加して、展翅（標本作り）、同定（蛾の名前を図鑑で調べる）を体験してから毎年続けて5年になります。栽培する植物にとって害虫であり、毒を持つものもあり、嫌われ者ですが、蝶に比べて遜色のない蛾の美しさを皆さんも実感してください。標本は「里山の家」にあります。今年の灯火採集に参加してぜひ「生」の美しさを見てみませんか。



▣蒲（ガマ）の穂とヘリコプター

小木さか枝

木曽の御嶽山の麓で育った私は、蒲の穂が妙に心に残っている。子供のころ刈り入れした稲束を背負って八ヶ掛け場に行く道中、立派な蒲の穂があり触ってみたいのだが「触ると耳がつぶれ、聞こえなくなる」と親から強く止められ今もって「本当かいな?」と思っている。自然の持つ毒や特性の怖さを大人は色々な表現で教えてくれました。平和公園のトンボ池の湿地にも沢山穂が出ます。まだ改修工事前のある日、背丈ほどの夏草茂る中、散歩がてら蒲の穂を見に行ったら、上空の低飛行のヘリコプターに「こんにちは」の挨拶のつもりで手を振りました。主人と二人で「戻ってきたりして・・・」と話していたら、本当に大きく弧を描き、上空に戻って来たのです。「緊急」のサインと思われたのでしょうか。パイロットの方に申し訳なく思いました。皆さんも蒲の穂を見に行ったら、穂の綿毛とヘリコプターには気をつけてくださいね。



【 子どもを育む 】

▣森づくりの会でこどもの成長を知る

藤岡 嶺子

東山の森で子どもたちと一緒に過ごす場面はいろいろある。毎月の定例活動や自然観察、年4回の子ども森づくり隊その他の行事など。野でこどもの声を聞きながらの作業は心いやされてたのしいし、子どもたちの成長の早さには驚かされる。ついこの間までくたびれると「おんぶ」をせがんでいた幼児が、親から離れて男の子どうして木に登っている。感想をきかれてははずかしいがり、お母さんの後ろにかくれた女の子は、数年経って捕獲した虫を見せ求めに応じて生態を説明してくれた。おとなたちはわが身の variability を嘆きつつもこどもの成長がうれしい。今年になって気付いたことがある。

それは、一人で（家族が来るからではなく）出席する少年や、家族で参加しても親のそばでなく自分の持ち場を選んで働いている姿である。何回も会に参加してきた結果と思われる。

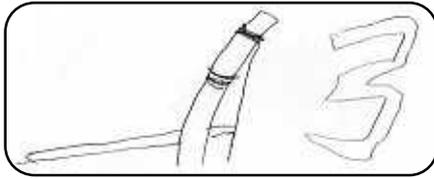
かれらを子どもたちのリーダーとして活動する機会を作りたいと思う。

まずは「子ども森づくり隊」や田んぼの行事で考えてはどうでしょうか。

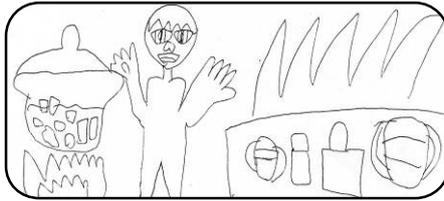


子どもたちの声

11、2月の子ども東山の森づくり隊活動の子どもたち感想の一部を掲載



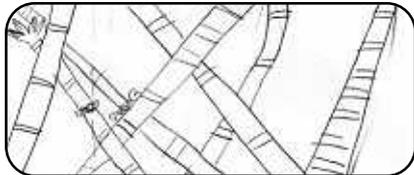
色々な物が作れた 中2男



とんじりを食べる所が楽しかった 小2男



木を切るところ。とんじりを食べる
ところ 小4男



竹を切るところが楽しかった 小3女



松の木をほじくったらキイロスズメバチ、コガネ、ハサミムシ、ムカデ、虫のようちゅうなどがいた所 小5男



木を切るとき。大きい木を切った時 小6男

載らなかった子はごめんね、次がんばってね!

【 森で汗をかこう 】

定例、班活動の紹介(各班よりの投稿)

定例活動 鬼頭 保
毎月第1日曜日 10:00~15:00(7~9月は9:00~12:00)
活動エリア 偶数月「くらしの森」
奇数月「ふれあいの森・いのちの森・うるおいの森」
6回実施 参加延人数 305名
竹やぶや雑木林、湿地の手入れなどを行っています。
毎回平均50名もの参加をいただいて活動していますが、
中でも竹やぶ手入れは想像以上の人力を要し苦慮することしばしばです。でも活動後の状態を眺めると、
ヤッター！ 達成感いっぱいになります。
皆さまの引き続きのご参加をお願いいたします。



1月天白溪湿地

班活動

平和公園里山班 小杉 愷夫
毎月第3日曜日 活動エリア「くらしの森」
(23年5月より活動日が上記に変更になります)
きれいな平和公園、きれいな東山の森への想いで、
平成16年4月発足した「なごや東山の森づくりの会」
に入会、翌々年に平和公園南部里山班に仲間入り、活動日は当時より第2・第4日曜日で作業は植木屋・農夫・清掃屋さんと多種でした。昨年より新しく畑班、
田んぼ班、炭焼班ができ作業分担も明確になり、里山班での活動は今年で早や6年目になります。自然が豊か
でさまざまな施設がある平和公園と東山公園地域が、人・生き物・植物が共存共栄する楽園となる想いで東山の森づくり活動を仲間とたのしく
やっていきます



東山公園南部里山班 滝田 久憲
毎月第4土曜日 活動エリア「いのち森・うるおいの森」
東山南部里山班が活動しているフィールドを紹介します。今回は苗場の湿地とその周辺です。

特に、苗場の湿地は東山の森における環境保全活動の原点に当たる場所です。ここでは、東海地方固有の湿地の植物を保全するための作業が行われています。以前は、サギソウが自生していましたが、盗掘され、現在ではトウカイコモウセンゴケとシラタマホシクサが保全対象となっています。また、この近くには、湧き水ポイントがあり、この水が貯まった池では、毎年3月になると、ヒキガエルのカエル合戦が繰り広げられます。この湧き水の水源となっている奥の森には、石像が立っており、私たちの活動を見守ってくれています。



苗場の湿地

竹くらぶ

松浦よし子

毎月第3木曜日 活動エリア「くらしの森」

健康作りのため東山の森に出掛けていて、竹くらぶに誘っていただき、軽い気持ちで参加しました。前日からの大雪で風は冷たく、所々に残雪があり竹林の中はピリッとした空気が漂い気持ちがいい。リーダーから竹林の手入れの必要性や竹の種類のお話を聞いた。初めて聞くことばかりです。草取りをしながら手を止めればヤブコウジが真っ赤な実をつけている、ヒイラギ、アベマキの苗もいっぱいです。耳を澄ませば小鳥のさえずり等、まだ「名古屋にこんな素晴らしい所があるんだ!」と感動しました。この素晴らしい環境を残してゆく活動に参加したい、と入会しました。



子ども東山の森づくり隊

坂野 静雄

なごや環境大学「共育講座」の後半2回参加人数 116名

11月はトウチク林で竹伐りを行い、伐った竹の一部で笛、花入れ、弓などを作っていました。2月は講座前日が大雪で心配しましたが、当日は快晴となり煮炊き用燃料として雑木林で枯れ木を拾い、そして径10cm程の木を伐り、作業の合間に植物、木の内部に巣食う虫などの観察をしました。この2回の講座では、昼食時に豚汁を美味しく、楽しく頂きました。継続して子ども隊に参加する子どもの親の中には、内容が前回と変わっていて良かったという声があり、今後の参考材料にしていきます。



今年度は5月7日(土)、8月6日(土)、11月5日(土)、24年2月11日(土)の4回実施します。

炭焼班

寺村 義明

随時 活動エリア「くらしの森の炭焼広場」

昨年の1月「里山について」滝川会長の講義の中で、カシノナガキクイムシに蝕まれたナラ等の木々を伐採し炭を作る炭窯造りの計画を教えて頂き、帰宅後その事を妻に話したところ即座に「是非炭窯造りに私も参加したい」と申し、二人で窯造り計画会議から参加させて頂き、その後耐火煉瓦、丸石、土砂等のリヤカーでの運搬、記録的猛暑と炎天下の中、窯造り、炭焼きと真っ黒になりましたが、素晴らしい仲間も恵まれ、今はいろんな行事にも参加させて頂き楽しく過しています。



炭窯造り

田んぼ班

内藤 豊

随時 活動エリア「くらしの森の田んぼ」

堆肥作り(1/28) 腐葉土と米ぬかと糖みつ水をまぜて、袋にいれて、倉庫の上のわらの間におき、ブルーシートで雨よけをしました。少しあたたかくなってきました(堆肥のもとが)。

レンゲ作り(2/11) 堆肥をまき、耕耘してから、レンゲの種を砂とまぜて、田の南半分にすじまきしたら、2/26には芽が出ました。堆肥をねらってカラスがいっぱい集まりびっくりしました。

秋に収穫したもち米で2/26餅つき大会を行いました。スタッフを含めて100名が集まり、餅を食べながら楽しい一時を過ごしました。



畑班

長妻 輝

毎月第2・第4日曜日 活動エリア「くらしの森の畑」

「一羽のジョウビタキに、疲れを癒されました」

今日も春先からの作物づくりのための耕し作業をはじめたのです。

畑班リーダーから今年の具体的な計画等の説明を受け、作業に取り掛かって間もなく女性班員がかわいい一羽のジョウビタキが直ぐそばにいることに気付いたのです。

皆が視線を注いでもこの冬鳥のアイドルは怖がる様子もなく、我々の作業を見守るかのように、彼方此方と移動してかわいい仕草をしてくれました。まさしく自然との共生を感じ、疲れも忘れて作業を続けたのです。そしてこの渡り鳥がやがて繁殖地に向けて無事に海を渡って欲しいと皆が強く願ったのです。こんな素晴らしい場面に出くわすことも多い「くらしの森」なのです。



調査活動班

滝川 正子

随時 活動エリア 東山の森全域

1月22日(土)灯火採集調査結果報告会をもって、今年度の6回の講座が終了しました。全参加者は105名でした。しかし、準備会や市民による同定会などの参加者を含めるとその総数は約140名でした。南方系も(ヤガ科)ニジオビベニアツバ(写真)が2009年、2010年と突然、採集されるようになりました。そして、名古屋市とその近郊に定着していることも報告されました。近年の地球温暖化によるものと思われそうです。



2010/7/31 くらしの森にて

* 各班の集合場所、時間などの詳細はホームページ「活動予定」で案内しています。皆さまの積極的な参加をお待ちしています。

【 森の表情 】

三摩 真弓

春の枝と書いて、春枝さん。これが母の名前です。ただ今、83歳にて、ますます・・・と言いたところですが、体の衰えは致し方なく、しかしながら、自力で出来ることは、やってもらおうとこの里山の活動に参加してもらっています。かつて畑仕事が趣味でありましたから、きっと・・・と思いましたが、思いのほか、気に入ってくれて今は、一番うれしい集中できる時間となったよう

です。自宅では、ほとんど無趣味で、ぼんやりしている人が生き生きと活動してくれるのは、こちらにとってもありがたいかぎりです。

この東山の森との最初の出会いは、10年ほど前です。引越しをしてから、緑の多さに気付き、郷里の大垣よりも多いと感じたくらいです。最初は、ただ、単純に散歩したり、ジョギングをしたり程度でしたがこの東山の森づくりの会を知り、自分でも、何か地域に根出した活動に参加できるのであればと参加させて頂いたわけです。その後、母が、こちらに滞在するタイミングを里山の活動日に合わせてスケジュールを決めることにしました。個人的には、仕事もありますから、すべての活動に参加できるわけではありませんが、この東山での活動も、ちょうど4年ほど経つでしょうか。

大自然ではなくても、身近に四季折々の草木と野鳥たち、昔よくみた昆虫なども目にすることができます。写真は、この平和公園の中ほどにある散歩道中程にあるこぶしの木です。UPの写真は、写真好きな友野さんに提供して頂いたこぶしの新芽です。森のPOWERを頂きたくての運動は、最近怠り気味ではありますが、里山の会・森づくりの活動は、なぜか続いています。きっと、森だけでなく、仲間の皆さんに会えるからかな？

これから春本番、東山の森もますます緑がふえて、目を楽しませてくれるでしょう。せり、つくし、わらび、こぶし、さくら等など・・・名古屋市緑化率30%を目標にしていると聞いています。やがて、もっとパーセンテージが上がることを期待して見守ってゆきたいと思います。



【 森づくりを生かした支援・交流 】

- ・10/30～12/11 4回講座「トライアルサタデー講座」(主催：千種生涯学習センター)
- ・10/24(日) COP10「くらしの森公式エクスカージョン」24名
- ・11/6(土) 名古屋ため池生き物いきいき計画事業による雨池池干し
(主催：名古屋ため池生物多様性保全協議会)
- ・11/21(日) 2/20(日) 3/5(土) くらしの森大坂池周辺の植樹ワークショップ
(主催：郷土種子を活用したなごやの緑化及び生物多様性保全推進協議会)
- ・12/18(土) 冬のどんぐりクラブ - 落葉プールで遊んでみよう- (主催：蓮教寺)
- ・企業の森づくり活動(11月TG社15名、12月RD社64名FX社8名、3月FX社11名)

ホームページを見てください!!

当会の活動を紹介するホームページです。

定例活動・班活動の様子と結果の報告、子ども森づくり隊の案内、各種イベントの紹介、森の中で観察された生きものの紹介などなど内容豊富です。ぜひご覧ください。



自然を豊かにし、
人生を豊かにする
森づくり活動に
参加しよう!

[なごや東山の森づくりの会](#)

[検索](#)

《会員数：3月31日現在 141名 個人135名 企業6社》

↑ 会員募集

人と自然のいのち輝く森

「東山の森づくり」に参加しませんか!!

年会費：2,000円 (企業：10,000円/1口以上)

入会申込・問合せ：〔連絡幹事〕鬼頭 保

Tel/Fax: 052-751-9510

e-mail: kito022445@mediacat.ne.jp

編集後記

皆で作る森だより、14号をお届けします。「森からの恵みは大きい、森づくりは森への恩返しです」という滝田さんの言葉、説得力がありますね。活動の励みとなります。

投稿歓迎 水谷泰通 Tel:052-782-5036

e-mail : y-mizutani@r7.dion.ne.jp